

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】		
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と適切な自学自習時間の確保		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 1学期には校内を、2学期には校内・校外を対象にし、授業公開週間を設置しているが、校務や持ち時間の関係から空き時間を活用して授業見学に行く回数に限られてしまっている。 各学年における成績上位層と下位層との学力差が大きくなっており、かつ下位層の人数が増加傾向にある。また学習意欲が高いとはいえない生徒も散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2学年においては、毎日規則正しく自学自習するという習慣が確立されていない生徒が見受けられる。 予習をして授業に臨み、授業後に復習するという学習習慣が十分に確立されていない。 受身的な学習態度で、自律的に学習できない生徒が増加傾向にある。 		
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解に基づいた授業力の向上を図るために、教科内で、また教科を越えてお互いの授業見学を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 充実した「入口指導」の実践により、切磋琢磨し学び合う学習集団の形成を図る。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を高める教材の開発や授業方法について研究し、共有を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2学年で毎日必ず自学自習する生徒の割合が90%以上 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者に対し、教科と学年との連携を図り早期かつ継続的に指導し、学年末の成績不振者ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習時間平日「学年+2」時間、休日「学年+5」時間の週計値（3年41時間、2年34時間、1年27時間）の達成率80%以上 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1学期には校内での、2学期には保護者や地域に公開しての授業見学・研究会を実施する。 SSH事業の一環として、論理的・創造的・独創的思考力の育成を図るための授業研究に取り組む。 学力差に対応した授業の展開方法や指導法について、学習連絡会等で協議研究を重ね、実践的に取り組む。 定期試験後には、成績不振者についての情報を学年と共有して生徒一人一人の状況を把握し、教科担任による面談や個別指導を行うなど早期に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びに向かう集団作り」という観点から、1年生のフレッシュマンキャンプ、2・3年生の学年集会等年度当初に行う「入口指導」をより充実させる。 予習－授業－復習－質問の学習サイクルの確立や、毎日の自学自習開始時間とその場所の確定等、学習のしかたを面談等できめ細かく指導する。 学習に対する内発的動機付けを高めるため、SSH事業とも連携し生徒の知的好奇心を刺激する機会を増やす。 土曜講習について、学年担任団が教科担任と連携し、各成績層の生徒に対応できる講座を設ける。 		
⑥評価 <small>*栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す</small>	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り授業見学・研究会を実施した。またSSH事業の一環としての授業研究を予定通り5教科で実施し、一部の教科では2学期の授業公開週間を中心に外部へ公開して研究授業を行ったので多数の来校者に参観していただくことができた。 生徒の学習意欲を高める指導法や教材について話し合い、実践できたが、当該学年の担当者内にとどまり、教科全体での共有は不十分であった。 定期試験後に各教科で分析を行い、成績不振者の指導につい 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びに向かう集団作り」という観点での「入口指導」の目的は概ね達成された。「入口指導」期間を5月末まで拡大し、特に1年生の国数英では丁寧な指導が実施できた。上級学年では学力層によりグループを作りお互いに刺激しあい学習する集団を形成できた。 自学自習をしていない生徒はほとんどいなくなったが、毎日必ず学習する生徒は1・2年生で約50%である。 10月学習実態調査より、目標学習時間達成率は平日1年16%、2年6%、3年35%。土日1年7%、2年3%、3年15%。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者へ個々の勉強方法の指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅で集中できない生徒もいる。校内で学習する場の提供があればありがたい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲が高いとはいえない生徒にも対応し、且つ論理的・創造的・独創的思考力育成を図る授業研究のさらなる推進。 	<ul style="list-style-type: none"> より発展的・効果的な「入口指導」を実施するためのプログラムの改善・実践。 		

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し各学年担当を中心に進路講演会、キャリア教育講演会、大学学部学科説明会を実施している。学問探究講義では、全職員での実施を計画している。卒業生との懇談会を企画し、学習意欲の向上を目指している。 時機をとらえた効果的な生徒個人面談を実施するために、その内容や実施方法について共通理解を図る必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データによる校内ランクの見直しや、進路指導委員会に向けての検討をさらに充実させる必要がある。また、外部模試のデータ分析については各学年・教科で、組織的かつ計画的に実施されてきてはいるが、必要な対応策を迅速に立案する必要がある。 進路学習室や大掲示板の活用等の利用環境や「興味・関心別おすすめ図書」は充実している。進路委員の有効な活用を検討したい。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の適切な進路選択に向けて、1・2年次からの系統的な進路学習を行い、指導資料をデータ化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内ランキングの見直しや適切な情報提供を行い、進路指導委員会を充実させる。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事や土曜講座の計画、実践により進路意識を高いレベルで維持する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年・教科で模試結果の分析を行い、学年全体の指導の改善を強化するとともに、個々の生徒の現状把握を徹底する。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導ノウハウの継承や、生徒個人面談の内容充実を図るために、教職員用の進路シラバスを作成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年次の進路検討会を実施することで、低学年からの進路情報の提供の充実を図る。 	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、働くことや探求することの意義を実感させるべく「キャリア学習会」や「進路講演会」、「学問探究講義」を実施する。 各学年のLHRの資料や学年独自の進路関係行事の実施記録及び長期休業前指導などの使用資料を電子データで整理し、三年間を見通したLHR及び進路学習を計画・実践する。 生徒の望ましい学習集団形成のために、土曜講座、長期休業中の講習を、実態とニーズに合わせて計画・実施する。 各学年毎にその時期の面談の意義や進路指導委員会等の進路行事の目的を明文化することにより職員間の共通理解を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内判定とランキングの見直しを丁寧に行う。また、大学・入試情報収集を一層充実させるための検討会を実施し、進路指導委員会の充実、生徒の進路希望の実現、教職員の研修に生かしていく。 校内模試、実力テストや外部模試(ハイレベルや大学別模試を含む)の分析や対策を学年・教科で行い、その結果を即座に教職員・生徒に還元できる体制を整えると共に、学年・教科の活性化に努める。 進路情報の収集については、教職員が充分把握した上で、生徒にその契機を与え、生徒が主体的に取り組めるような体制作りをする。 進路学習室・大掲示板により、恒常的な情報発信に向けての体制を整える。各クラス進路委員の自主的な行動を通して、進路情報の伝達や進路意識の高揚、進路環境の整備を充実させる体系を構築する。 	
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 %は1そう思 う+2大体そう思うの割合を表 し、()は 5わからないの割 合を表す < >…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価②(土曜講習の充実) 生徒 70 % (5) <62 (5)> 保護者 62 % (15) <68 (16)> 「数学の日」「英語の日」や、時機を捉えた問題演習の講座開設などの工夫により生徒の反応は良好であった。 栃高評価④(3年間を見通した進路指導) 生徒 83 % (5) <83 (5)> 保護者 85 % (2) <94 (1)> データとして蓄積された指導資料を有効に活用することで、LHRでの進路学習をさらに充実させる余地がある。 進路シラバスは進路指導部内で検討し作成が完了した。実際に使用しながら修正を加えていく必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑥(進路に関する情報の提供) 生徒 86 % (3) <83 (3)> 保護者 77 % (5) <92 (3)> 主に3年生が利用する進路資料室(赤本の閲覧ができる部屋)だけでなく、1・2年生向けの進路情報コーナーを設置し今後さらに充実させていく。 校内模試・校内実力、外部模試の分析は時機を捉えて実施することができ、課題の共有を図ることができた。 校内ランキング作成の審議のポイントを明確化できた。 難関大学の大学別模試のデータの活用について課題が残った。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 充実した進路指導である。偏差値以外にも各大学がもっている特徴を生徒に引き続き知らせてほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒は志望大学の校内ランキングを把握している。引き続き、安易に諦めてランクを下げてしまうことのないよう指導をお願いしたい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路シラバスの修正と、それを活用し、教職員の目線合わせと進路学習の充実を図る。 土曜講座の計画的な実施による内容のさらなる充実 		<ul style="list-style-type: none"> 大学別模試の結果(可否の弁別)についての教職員の共通理解 進路指導委員会に向けての予備検討会の充実 テストの有効活用を図るために目標平均点を周知・徹底する。 	

①重点目標	d 読書量向上への指導の実践 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】		
②重点課題	5 活発な図書館活動の実践	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会ブックトーク，読書会開催，学校祭参加，学校間交流，貸し出し数の増加などにより徐々に図書館活動が活発化している面が見られる一方，生徒自らの積極的な関わり方については途上段階にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣に関する指導（健康指導）について，生徒が十分理解して意思決定，行動選択しているとは言えない現状である。 ・HR担任を通し安易な遅刻欠席の防止を啓蒙している。 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出し数目標5000冊 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を週3日以上実践する生徒80% 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員以外の生徒も含めた読書会年間5回以上 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月発行する「保健だより」の内容の充実と活用 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・栃女高を含めた近隣高校との交流 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率99.5%全クラスの80%達成を目指す。 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板，放送などを使った広報活動を継続的に行う。 ・ホームページを継続的に更新する。 ・近隣の学校に交流を呼びかける。 ・読書会の拡大を図る。 ・閲覧室・多目的ホールの蔵書を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣に関する指導を充実させ，教科での授業とともに保健室利用生徒に対して健康に関する意思決定，行動選択の実践を促す。 ・保健だよりの内容を充実させ，健康に関する情報を活用させる。 ・日常的な欠席予防指導を強化する。 ・不登校傾向生徒の把握と事例研究会の迅速な開催のため学年担任係の連携を強化する。 		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し， ()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> ・栃高評価⑦ 生徒39(5) <34(7)>、保護者47(10) <39(22)> ・栃高評価の結果から読書活動の活発化が多少見られたが、依然として不十分だと思われる。 ・貸し出し数4722冊 (2/27 現在。前年同期比1259冊増)。 ・読書会は年間5回達成。一般生徒の参加は実現しなかった。 ・栃女高・翔南高を含めた3校の交流会実現。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栃高評価⑧ 生徒57%(4)<56(5)> 保護者73%(9)<80(7)> ・運動実施状況 週3日以上1年72%(+2) 2年67%(+4) 3年42%(-11) 3年の実施率が昨年を11%下回った。 ・保健だよりを継続的に刊行したこと等により，生徒の意識に大きな変化はなかった。健康に関する行事のHPへの掲載等については課題が残る ・今年度出席率99.5%を達成したクラスおよそ33% (60/180) ・昨年度出席率99.5%を達成したクラスおよそ36% (59/162) 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量が全体として増えて好ましいことだ。生徒により、読書量に差があってもしかたない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の設定がやや高めであるが、今後好評価になるよう期待したい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館活動全体についての広報推進 ・読書会拡大のための広報のさらなる充実 ・3校合同交流会の定着<ビブリオバトル(書評合戦)実施> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の継続等，健康的な生活習慣について理解させ自ら実践するよう指導する。 ・「保健だより」の内容を工夫し，より多くの生徒に活用させたい。ホームページ等への掲載も継続したい。 ・不登校・不登校傾向生徒の指導，援助についての適切な対応方法の研修の継続実施。 ・安易な欠席予防の更なる啓発。 ・運動の継続等，健康的な生活習慣について理解させ自ら実践するよう具体的な対策を検討する。 ・「保健だより」については，今後もより多くの生徒が活用するよう指導する。健康に関する行事のHP等への掲載を効果的に実施したい。 		

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】			
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事, 部活動, 体験活動に全力的に取り組む支援体制の整備		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり, 全員参加による学校祭を企画している。 計画的に準備が進められるようになってはきたが連携が十分図れているとは言えないところもある。 参加団体の企画の文化性や娯楽的な内容も充実し, 新たな企画も好評を得た。また, HPの活用で学校祭のアピールを地域社会に向けて発信することで年々来場者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率も高く, 移動教室, 外国人との交歓会, ボストン海外研修, 県庁堀清掃ボランティア, 生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。 文武両道を掲げ多くの生徒が学業との両立を目指し努力している。しかし, 進路実現のための学習時間を確保することの難しさもあり, 途中で部活動を離れていく生徒も見受けられる。 		
④達成目標 達成率 A: 達成できた。 B: 概ね達成できた。 C: 達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 入場者目標延べ2,700人(雨天時2,000人) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率80% 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会と文化委員の連携の強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室, 交歓会, 海外研修の参加目標人数の達成 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 校内公開の完全実施と内容の充実 	A		
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに, 文化委員と担任との関わりを充実させ校内公開を成功させる。 生徒実行委員会だけでなく, 各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ, 学校全体を活性化させる。 本校HPを活用し, 学校祭プログラムを事前告知し, 情報発信に努める。 学校全体の一体感を育てるために, 後夜祭企画は内容をスリム化し, 全学年参加型企画を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学業の両立支援の通知を配布する。 年度初めの部活動加入率の調査と, 年度末の時点での退部状況の調査を実施する。 移動教室やボストン海外研修においては, その魅力を十分に事前告知することにより, 目標人数を達成する。 体験活動全般において, その意義を各クラスにおいて指導し, 事前指導・研修の機会を設け, 参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。 国際理解委員会による交歓会等の行事をとおして, 国際理解委員会活動の活性化を図る。 		
⑥評価 *栃高評価満足度% は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し, ()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	栃高評価⑩ 生徒 92%(2)<92%(2)> 保護者 99%(0)<100%(0)> 入場者 2,917名 (過去最多を更新) 昨年度 2,532名 <ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会とクラス文化委員の連携がうまく図られ, 昨年に比べクラス企画の校内公開の内容もさらに充実し, 生徒の満足度が高かった。 各種専門委員会の様々な活動場面が増え, 組織全体の機能が活性化した。 		<ul style="list-style-type: none"> 移動教室 スキースノーボード教室参加予定者 75名, ボストン海外研修参加者 27名, 例年同様積極的な参加状況である。 部活動加入率4月末86% 11月末現在84% 今年度は4月当初から80%を大きく超える加入率である。4月から比べれば若干減少しているが11月末でも84%を維持, 1・2年生については90%に近い高い数字を示している。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭は以前と比べて内容も工夫され大幅に質が向上した。近隣からの来校者が増えたことも理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が以前より増え, よい傾向である。また, 本校運動部の生徒が校外で素直に挨拶をしてくれる。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭実行委員会とクラスの文化委員の活動内容を精査し, 実行委員会のクラス企画へのかかわり方をスリム化する。 		<ul style="list-style-type: none"> 高い部活動加入率が維持できるような支援体制を継続していく。 各行事の担当者との連携を密にし, スムーズな運営を心がける。 	

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上	10 校内生活における規範意識の向上		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成につながることを理解させ生徒指導を実践している。 校内規則違反や問題行動に対して全ての教職員が適時に指導できる体制を確立して指導にあたっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づきその時、その場での指導を実践している。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 法令違反ゼロを目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生ゼロを目指す。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の苦情昨年比50%減を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話規定違反生徒昨年比50%減を目指す。 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が校内の集団生活におけるルールの必要性を理解し行動できるよう十分に説明を行い指導している。 校内規定違反や小さな問題行動についても教職員が毅然とした粘り強い指導を実践している。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いの良さを認め好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくり指導をしている。 気軽に相談、面談できる体制をつくり生徒の悩みに適切に対応している。 携帯電話使用規定をはじめとする校内規則の遵守については適切な指導を行うと共に内面的な自覚を促し規則を自分のものとしてとらえ自主的に守るよう指導している。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑫生徒 75 % (3) <77 % (3)> 保護者 81 % (10) <88 % (5)> 1年生、自転車2人乗り。(法令違反) 1件発生。昨年比-1件 交通関係苦情、通学マナー苦情計9件。昨年比+3件 交通事故11件発生。昨年比+4件 		<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑬生徒 76 % (4) <78 % (2)> 保護者 81 % (6) <95 % (1)> 栃高評価⑭生徒 72 % (4) <81 % (6)> 保護者 72 % (4) <76 % (4)> いじめ発生ゼロ。昨年比-1件。アンケート調査ではいじめに発展しそうなからかい等が数件答えられた。 携帯電話規定違反生徒、21名指導。昨年比+5名 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 苦情についての評価はCだが、期待を込めての苦情もあると思われるので引き続き指導をお願いしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生ゼロは素晴らしい。スマートフォンなどの指導も継続してほしい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の醸成指導の徹底。 交通ルール遵守、マナー向上を徹底させ事故防止に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめ、悩み、スマートフォンアンケートの複数回実施等によりいじめの早期発見、早期指導、早期収束に努める。 ネットトラブル防止講座の実施。 	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み 【保健厚生】	i 広報活動の充実 【渉外】【教務】		
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> ・教室周辺の清掃，廊下のロッカー上の私物の整理が不十分である。 ・ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが，学校教育活動からの可燃ゴミをさらに減量したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」を年4回発行 ・一日体験学習募集ポスターの送付 ・中学校訪問用持参資料の作成と中学校訪問 ・ホームページの定期的な更新→ 月間アクセス数 約15,000 ・「PTAだより」を年2回発行 ・PTA総会，PTA支部会，学年研修会において進路・学習・生活指導等の取り組みや現状についての情報の提供 ・PTA評議員会を年4回開催 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル活動を促進し，可燃ゴミの量を月間 1,000 kg 未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 30校 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・教室周辺の清掃やロッカー上の私物散乱等の指摘ゼロを目指す 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの月間アクセス数 17,000 件 	A
			<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有をさらに深めるための「PTAだより」の構成の改善 	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会による清掃状況の確認と，清掃用具点検を実施する。 ・環境美化委員会を中心とした資源ごみのリサイクル運動を推進する。 ・環境美化委員が学習環境を整える意識の啓発を促し，月に一度教室環境をチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上での一日体験学習への案内 ・中学校訪問による積極的リクルート活動 ・学習塾等への訪問による情報収集とリクルート活動 ・ホームページ更新頻度の分野別実績公開 ・PTA 評議員会や PTA 支部会における「PTA だより」の構成・内容等についての検討 		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し，()は 5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ	<p>栃高評価⑮生徒 60 % (5) <62 % (4)> 保護者 54 % (17) <47 % (23)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例大掃除後の教室環境チェックを実施した。ロッカー上の散乱等は昨年度より改善した。 ・保護者が来校する際の清掃状況がやや改善した。 ・可燃ゴミ合計量 10, 745 kg(月平均 976 kg/月・4～2月)であった。合計量が昨年比約1%増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のカラー化ほどの大きな変容はなかったが，「PTA だより」の構成・内容の充実に努力した。 ・栃高評価⑯生徒 74 % (8) <75 % (7)> 保護者 90 % (1) <90 % (1)> ・中学校訪問は，昨年度までの栃木市・小山市・鹿沼市・壬生町に加えて佐野市・下野市・野木町の全ての中学校 53校に打診し，18校に訪問することができた。参加した中学生や保護者からの反応は良好で，訪問した生徒・保護者への十分なPRとなった。 ・ホームページのアクセス数は，4月～11月の平均で 17,230 件/月。上半期(～ 8/31)662 件/日→下半期(～ 12/1)401 件/日と減少傾向であった。地域・保護者への情報発信として質量併せた充実が今後望まれる。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミのリサイクル活動などを続け，さらなる環境改善を目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」や「PTA だより」は充実している。本校HPへのアクセス数も伸びている。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別回収による，可燃ゴミの減量を引き続き定着させる。 ・環境に配慮した校内活動を実践するとともに，トイレの清潔な使用についても指導する。 ・教室や廊下，ロッカー上の整理整頓や清掃については，HR 担任や清掃監督者と連携して適切に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は，高校入試全県一区制に伴い，訪問する地域や中学校，および対象学年，形態等を再検討する必要がある。 ・ホームページの活用を全職員が認識し，学校行事や大会等の結果の書き込みの習慣化を図る。 ・「PTA だより」の内容について評議会・支部会とのより綿密な連携をはかる。 		

